

公益の風 #13



東北公益文科大学
教授

小野 英一

「公益の風」という連載テーマをいただき、蘇った文章がある。「酒田市は、どこからともなく公益の風が流れてくるまちである。公益の文字を刻んだ「公益の碑」をはじめ、いたるところに公益の足跡が残されている。まち全体が、公益を探り、公益を学ぶ宝庫である」。これは約15年前、2006年に本学が刊行した『公益の源流、酒田を歩く。公益の足跡をたどる、公益を考える。』の巻頭言、小松隆三氏による一文である。

酒田と「公益の風」

歴史が連続と続いてきており、「公益のふるさと」とも称される。そして先人の公益活動を顕彰する「公益の碑」も各地に存在する。

東北公益文科大学の近辺にも「公益の碑」が数多くみられる。最も近くにあるのが砂防林植林にある「松林碑」であり、大学から徒歩わずかの道路端にある。「公益」の刻字がある「公益の碑」としては、大学のグラウンドから最上川方向に少し進んだところに「中瀬渡船碑」、車で数分の十里塚公民館前に「高橋五郎治功德碑」がある。なお、大学から少し離れるが、遊園部にある「開田記念碑」にも「公益」の刻字がある。

これらはいずれも20世紀のはじめに建立されたものである。つまり「公益の碑」が生まれた100年ものち、この地に「公益」を冠した大学が生まれたということである。運命というものを感ぜざるをえない。

同書において「公益の薫風かよい、公益の精神漂う公益の丘」と紹介されているのが市民の憩いの場である日和山公園である。山王森の頂には本間光丘を顕彰した「松林銘」が鎮座している。酒田市が全国に誇る「酒田市公益のまちづくり条例

例」は「本間光丘」と「東北公益文科大学」という固有名詞が入っていることであるが、その前文において、前者は「公益の祖」として、後者は「公益学の発信地」として登場する。旧白崎

医院隣にある「白崎良弥君之碑」、駐車場隣にある「荒木彦助翁功績像」には「公益」の刻字がある。さらに港を望む丘の端には、六角灯台と並んで「石井君紀功碑」が立っている。

日和山公園入り口にある海向寺には二体の即身仏が安置されているが、酒田市が策定した「酒田市中長期観光戦略」では「公益の極み」と評されている。なお、この「酒田市中長期観光戦略」では、酒田市の観光に関する分析が行われているが、その「強み」として打ち出されたのが「公益の精神」である。行政計画は自治体の行く先

を示す羅針盤である。市の行政計画に「公益の精神」が記されたことの意味は大きい。

東北公益文科大学が開学して20年の月日が経った。この間、公益大は酒田に流れる「公益の風」の中にいた。これからも変わらないうつ、流れ出した風は止まらない。動き出した運命もまた止まらない。



中瀬渡船碑



高橋五郎治功德碑



松林銘

「敬天愛人」2022年7月号 Vol.160掲載（庄内日報社発行）